

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|---------|----------|
| 事業所番号 | 4079600377 | | |
| 法人名 | 有限会社 ベストケアカンパニー | | |
| 事業所名 | いきいきハウス池尻 | | |
| 所在地 | 福岡県田川郡川崎町大字田原345番地15 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年2月17日 | 評価結果確定日 | 令和2年3月9日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん |
| 所在地 | 福岡県直方市知古1丁目6番48号 |
| 訪問調査日 | 令和2年2月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一同が昨年と同様、「利用者さまへ、最大の笑顔と真心をもって支援していきましょう」の重点支援テーマを継続して行っています。職員の意識向上とサービス精神の涵養を目指し設定していますが、日々浸透しており全ての業務に共通する認識として共有できるようになって来ていると感じます。これからは、利用者の生活全般のケアのみならず、その業務が職員各位のより良い人生を築く礎になるという事を実践していけるように努力して行きたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の理念に加え、「今それぞれの方が生きていて良かったと思える場所、家族もそれが思える場所、職員が笑顔で接する」を今年の重点テーマに掲げ、入居後1ヶ月間はその方を知るため重点観察期間として、本人や家族、友人などから聞き取りを行っている。さりげない声掛けや対応で入居者各々が自由に穏やかに過ごされ、親子関係が修復した入居者もある。七夕交流会は10年以上継続し、小学校の恒例年間行事となり、2台目の車いすの寄贈も受けている。地域の幸神祭の神輿や獅子舞の巡行は、入居者の方々に笑顔で迎えられている。依頼を受けホームで開催した転倒予防の研修は代表が講師を務め、行政、民生委員、地域の方などの参加があるなど、地域貢献や交流が継続し、理念や重点テーマの具現化に全職員で邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **いきいきハウス池尻**

| 自 己 | 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|--------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 創業からの理念のほかに、年次重点テーマを掲げ、毎朝呼称し、職員への周知をしている。入居者だけでなく職員間も良好なコミュニケーションをとることで家庭的な雰囲気大切にしている。 | 運営理念は誰もが目につく共有場所の壁に掲示されている。廊下に入居者のいきいきした表情の写真や可愛いイラストが掲示され、年次重点テーマの実践で、入居者各々が自由に穏やかに過ごされ、親子関係が修復された入居者もある。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 行政区や隣組との付き合いを生かし、地域交流できるように取り組んでいる。近隣の小学校との七夕交流会や神幸祭の神輿・獅子舞の来訪もあり、事業所としての地位を築いている。今年も小学校より是非にと車いすの寄贈を受けた。 | 毎年小学校と打ち合わせしている七夕交流会は10年以上継続し、小学校の恒例年間行事となり、又2台目の車いすの寄贈を受けている。地域の幸神祭の神輿や獅子舞の巡行も継続している。高校生の実習を受け入れ、豊かな感性に刺激を受けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 行政主導の予防教室が中止されているため、来年度の町支援単独事業等を受託できれば行いたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 意見については、適切に対処し、改善や工夫を行い、運営に生かしている。 | 2ヶ月毎に、入居者、家族、行政職員、民生委員、職員等の参加で、ホーム行事や地域の認知症徘徊、独居者が多いこと等をテーマに開催している。会議録は職員や家族が見やすい事務所出入り口に掲載され、市のホームページにも公表されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 質問や相談が頻繁に行われており、行政の訪問や要請も多々ある。介護職の勉強会にも定期的に参加している。 | 会議への出席などを通して研修依頼があり、昨年10月当施設で転倒予防の研修を開催している。代表が講師を務め、行政、民生委員、地域の方などが参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年間研修で職員の指導を行い、理解を深めている。また、身体拘束を含めた介護周辺の知識が浅い職員が多いため、「待つ」「忙しい」と対応するのではなく、一旦手を止めて対応するようにしている。 | 身体拘束適正化会議は2ヶ月に開催され、身体に留まらず言葉による拘束をしない心構えをしている。調査日も「せんせ～い来て～」と大声で呼ぶ入居者に、職員は傍に腰掛けて「済みませんでした。早く来れずにゴメン」と対応している。 | 現在の穏やかなケアの提供を継続するためにも、管理者が身体拘束の具体的な内容を熟知し、新規入職者が正しい知識や技術の習得する機会を設けられることを期待します。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 相互監視による報告の仕組みをルール化し、情報を収集し、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修での習熟チェックを行い、権利擁護の気持ちが入り浸透するようにしている。 | 現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用する利用者は居ない。対象者が居れば整備しているパンフレットで説明したり、行政の相談窓口などを紹介している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分説明し納得いくまで確認している。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の要望は、出しやすい雰囲気でご方からもお尋ねもし、責任者へ必ず伝達されるようにしている。 | 意見・苦情箱の設置はしているが意見が入ることは無い。家族会も無いが、家族より入居者への対応が悪いとの意見があったが、ご本人が落ち着いた生活をしている事に気づき、お礼の言葉に変わっている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議で出された意見を検討反映させるほか、日々の気づきを吸収する工夫をしている。申し送りノートを活用して、小さなことでも全職員が共有できるよう確認を行っている。 | 日頃から率直な意見交換が行われている。職員の意見で、車いす使用者が2名並ぶと車輪が当たるため、テーブルの配置変えや席変えをしたり、高いテーブルは車いすの方は使いにくいいため簡易テーブルを作成するなど、全職員で取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、介護の仕事の大切さや意義を理解させるよう努めている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用条件は公平であり、性別や年齢、資格にこだわらず、人間性で採用している。社会参加や自己実現の取り組みを今後充実させたい。 | ハローワークやチラシ、職員の紹介などで求人し、男女問わず幅広い年齢の職員が働いている。代表は資格の有無より人間性を重要視し、入居者に寄り添える人材を求めている。研修参加には休日や費用の補填があり、休憩も職員が交代で話し合いながら取っている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 研修を通じて、人権尊重教育を実施し、サービス提供に生かしているか、実践状況の把握に努めている。 | 福岡県主催の人権研修に参加した職員が内部研修を行い、全員に内容を周知している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 未経験者の就業者も多く、研修でマニュアルに従って、自然に熟練度をあげられる取り組みを行っている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 地域介護ネットワークが立ち上がり、今後参加する予定である。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントを通じて情報の把握を行い、生活基盤づくりに努めている。職員の気づきがニーズを掴む重要なポイントと認識している。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面談を通じて、話しやすいよう投げかけを行いながら関係づくりに努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ニーズの見誤りがないように努めながら、本人の適切なサービスが何であるかを見極めるようにしている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 相性や人間関係に合わせた仲間分けや席決めなどで、協力や支えあいで共に暮らすという雰囲気あるアットホームな関係を築いている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に協力を要請し、家族の関与を引き出している。月に一度は訪問していただけるように仕組みづくりを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族と買い物やお彼岸のお墓参りに出かけたり、家族の了承を得た友人の来訪など、ご家族の支援を得て、本人の意思を尊重している。 | 家族と一緒に友人が来訪される方が数名あり、「久しぶり～」といつもより明るく楽しい時間を過ごしている。家族とお墓参りに出かけたり、洋服を買う、行き慣れた美容院へ行くなど馴染みの場所への外出を支援している。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや共同作業を行い、孤立しないよう、支えあいを演出できるシーンを大切にしている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 年間カレンダーを毎年届けるなどして、関係が途切れないように安否確保に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントを通じて安心して穏やかに過ごせるように把握に努めている。初期アセスメントを継続し、生活基盤づくりを優先させ、本人本位の把握に努めている。 | フェースシートに本人の成育歴、生活歴、性格、意向などが収集されている。入居後1ヶ月間はその方を知るため重点観察期間として、本人や家族、友人などから聞き取りを行い、アセスメントシートに整備している。 | 把握した情報を適切に記録し、全職員で情報を共有できるアセスメントシートの検討を期待します。 |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 前段階での情報収集や、関係者からの聞き取りを通じて、本人本位に行われている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々変化する心身状態や健康管理面の情報を適切に分析し、個々人に合わせた支援につなげている。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメントを適切に行い、モニタリングを通じて現状ニーズの把握をし、最適の計画を作成実行している。 | 入居者の不穏はいつ起こるのか、その時の環境は、などを観察し、申し送りや職員や管理者、介護計画作成担当者間で情報が共有され、問題解決に向けてケアが提供されている。 | さらに現状に即したケアを実践するために、アセスメントによる課題の抽出、介護計画の立案、モニタリングの実施、評価のプロセスを全職員で共有し、個別性のある具体的な介護計画の作成を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気づきやケアの実践を個別記録に記入し、職員間で連携を取り、情報共有や介護計画の見直しに活かすよう努めている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の心身や環境の変化に合わせて外部サービスの利用検討や業務改善アイデアにより、柔軟に取り組む姿勢がある。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域や商店街の催事の活用に取り組んでいる。小学校との交流を今も大切にしている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族の協力を得ながら、希望の医療機関の受診が行われている。眼科や歯科などの受診同行は基本家族にお願いし、協力医療機関受診は職員が対応している。 | 職員が内科受診に同行し、緊急性に応じて当日や家族来訪時に報告している。眼科や歯科受診は家族の同行をお願いしているが、情報の共有に努めている。 | |
| 33 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の観察の中でとらえた情報や気づきを、カンファレンスを通して適切に医療機関につなげている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 早期退院に向けてメンタルケアなど取り組んでいる。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 利用開始時で大まかな希望を聴取し、その後状態変化に応じてご家族や本人の希望に沿った方針を示している。必要な場合医師を含めた三者で終末期の対応を話し合っている。 | 入居時、家族に重度化した際の意思を確認している。ホームで看取りをとの家族もあったが、重度化した際は病院への搬送を希望された。医療機関との体制は整えているが、現在まで看取りはない。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修を通じて各職員の能力に応じた訓練を実施している。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 行政区避難所への誘導時において地域住民への協力を要請している。1か月分の飲料水やご飯、簡易トイレ等を保管する備蓄庫を整備している。 | 備蓄庫や備蓄台帳を整備し、飲料水や食糧、簡易トイレ等を保管している。昨年は2月、10月の2回の避難訓練を行い、消防署より「訓練だが危機感を持って」と注意を受けた。又、夜間急変した方へAEDを的確に使用するなど、日頃の学びが活かされていた。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者と接する際は尊重する姿勢で臨むよう指導を行っている。 | 傍に寄り腰を落として目線を合わせて入居者に声をかけるので、周りには話し声が聞こえないが、昼食後の歯磨きやくつろぐ場所へ移動はスムーズに行われている。呼称をちゃん付けする場合は家族と話し合うなど、個々の人格を尊重した対応を実践している。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定ができるよう働きかけている。今日の食べたいものに合わせたメニュー変更や好みの食材調査など柔軟に行っている。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活リズムを示した施設の決まりに沿った行動の中で、利用者がこうしたいという希望の表出はさりげなく促すなどして応えられるよう取り組んでいる。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自己選択ができる取り組みを行っている。服は自分で選んでいただくほか、整髪や身だしなみなどには気を配っている。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の皮むきや食器トレイ拭き等、利用者の自発的な行動を尊重しながら食事に対する関わりを持たせる支援を行っている。誕生日会では本人希望の食事メニューで祝っている。 | 調査日は献立に使用した野菜の値段を話題に、入居者は笑顔で其々のペースで完食していた。すき焼きが食べたいとの会話から、メニューにすき焼きを入れたり、旬の食材をテーブルにのせ、食事を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取は1600cc/日を目安に年間取り組んでいる。献立バランスや摂取量を通じて医者とも相談しながら支援を行っている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアは利用者に合わせた内容で行っている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄の自立に重点を置いており、排泄のパターンに応じた声かけや誘導を積極的に行っている。 | 排泄記録を整備し、把握した排泄パターンに応じてトイレに誘導したり、夜間もポータブルトイレは使用せずトイレでの排泄を支援している。落ち着きがなくなったり、急に行動が変わるなどのサインを見逃さないようにしている。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 医師との連携の中で主体的に取り組むほか、運動や水分・食物繊維の摂取で自然排便を促すよう取り組んでいる。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴の日時は決まっているが、希望に合わせて柔軟に対応している。 | 広く清潔な浴室はシャンプー等も個人別に整理され、週3回の入浴支援を行っている。寒いからとか眠いなどと億劫がる場合は順番を変えたり、翌日に変更したり、午睡を優先したりと、状況に応じた支援が継続している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安眠が確保できるよう、安らぎを持たせる支援に取り組んでいる。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人の薬手帳を職員が管理しており、症状の把握と用法や副作用などの服薬確認ができるようになってきている。医師との連携により適切な支援に努めている。 | | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人の性格や志向に合わせた支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族と相談しながら行きたい場所への支援を行っている。日課として飼い犬と一緒に散歩している。飼い犬との散歩が運動療法になっている利用者もいる。 | 昼食後は入居者全員が屋外に出て、外気に触れる事を毎日の日課にしている。犬と一緒にだったり、車いすごとだったりと個々の身体状況に合わせている。代表が敷地内に植えた桜と栗の木を見たり、拾った栗の実を食卓に並べたりしている。現在ウイルスの感染防止のため外出を控えているが、再開を楽しみに待っている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人でお金を所持することはほとんどないが、施設の買い物に出かけたときは利用者が支払い計算することを支援している。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | できる限り支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を出せるように利用者と工夫して行っており、ホールには月ごとに異なるテーマ装飾が掲示されている。壁面には行事の写真や作品を掲示しており、ご家族が来訪されたとき閲覧できるようになっている。 | 玄関から居室の出入り口につながる長い廊下が見渡せ、壁には笑顔の写真や可愛いイラストも掲示されている。空調が管理され暖かな日差しがさしこむ共用空間は、ソファで寛いでる方、おしゃべりをする方、貼り絵をする方など各々が自由な時間を過ごしている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 座席を分けたり、ソファの利用を勧めたりしながら思い思いに過ごせるよう工夫を行っている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの調度や備品を持ってきてもらい、居室内の工夫をご家族とともに行っている。各居室入り口には大きく利用者名で掲示し、居室間違いを防ぐ工夫をしている。 | 居室は整理整頓され入居者の動線が確保されている。昼夜のメリハリをつけるためカーテンは開かれて明るく、位牌が3基枕元に置かれている居室もある。居室の出入り口に貼っている大きな名札は、家族からも分かり易いと好評である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 利用者のできることを活かした自立主体を最大限に取り入れる支援をおこなっている。 | | |